

仕様・サイズ

「セーフティブレーキ車いす」

※1[()は折りたたみ時の値] ※2[()は専用クッションを含む値]

項目	寸法 (mm)
全 長	970 ※1(935)
全 高	880 ※1(625)
全 幅	640 ※1(330)
前座高/後座高	350/325 ※2(410/375)
シート幅	400
バックサポート高	420
アームサポート高	250
手押しハンドル高	880
バックサポート角度	95°
キャスト	6インチPUキャスト輪
駆動輪・主輪	20インチハイポリマー車輪
重 量 (専用クッション含む)	16kg(専用クッション1.7kg含む)
耐 荷 重	100kg(積載分含む)
フレーム材質	アルミ軽合金
シート材質	ナイロン
専用クッション材質	クッション部：ウレタンフォーム クッションカバー表地：ポリエステル クッションカバー裏地：ポリエステル (PVCコーティング) インナーカバー：ポリウレタン ベース材：合板

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

発売元

フランスベッド株式会社

〒196-0022 昭島市中神町1148

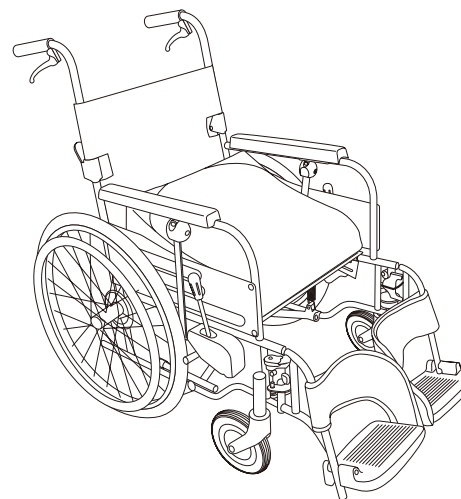
製造元

Miki

株式会社 ミ キ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号

取扱説明書



まえがき

このたびはフランスベッドの製品をお買いあげいただきまして、ありがとうございます。

この取扱説明書には、製品を安全にお使いいただくための、注意事項と使用方法を記載しています。

- 安全のため、必ずこの取扱説明書をよく読み、内容を十分理解してから使用してください。
- 取扱説明書を読んだ後は、いつでも必要なときに取り出せるように、所定の場所に保管してください。

リハテック
Reha tech

目次

はじめにご確認ください 2

安全上のご注意 3

各部のなまえ 7

使いかた 7

ブレーキのかけかた／解除のしかた 7

制動用ブレーキ(介助用ブレーキ)の
かけかた 8

開きかた/たたみかた 9

乗り降りのしかた 11

フット・レッグサポートの 13

開閉・取り外し

各部の調節のしかた 14

軽量フットサポート 14

フットサポート調節のコツ 14

使用上のご注意 15

保守・点検 15

お手入れ・保管について 15

走行上のご注意 17

段の上がりかた 17

段の下りかた 17

こんなときには 18

アフターサービスについて... 19

仕様・サイズ 裏表紙

※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

FranceBed

はじめにご確認ください

本製品購入後に、はじめて梱包箱をあけるときに、下記のものが入っていることを確認してください。

車いす本体、取扱説明書(本書)、保証書、工具(スパナー:2ヶ、5mm・4mm・3mm六角レンチ各1ヶ)

目 的

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。

これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。

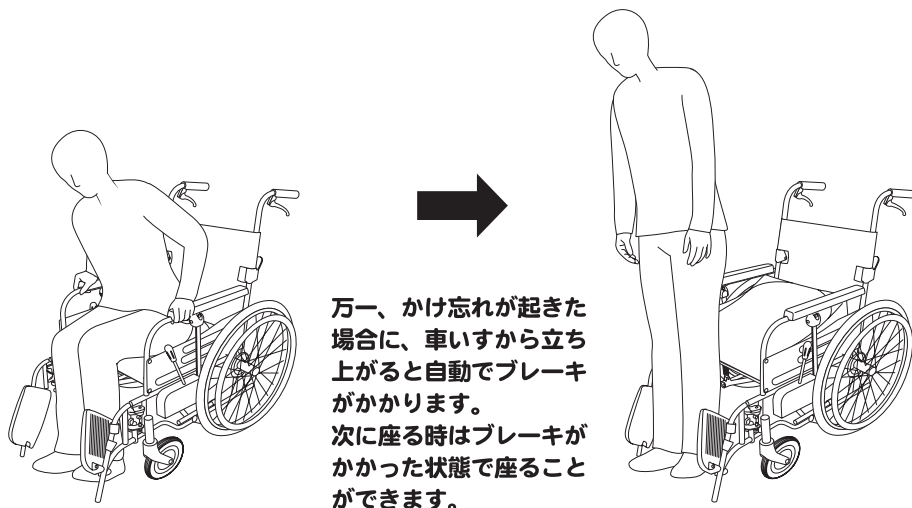
本製品は、特別な身体保持具、バックサポート(背)・座位の角度調整機構等がなく、使用者がハンドリムを操作して駆動する手動式の自走用標準形車いすです。

日常生活用に設計されており、特殊な使用目的(スポーツ・入浴など)のものではありません。

「セーフティブレーキ車いすの特徴」

車いすからの移乗の際に万一、駐車用ブレーキのかけ忘れが起きた場合、利用者が立ち上がると自動で駐車用ブレーキがかかります。次に座るときは駐車用ブレーキがかかった状態で座ることができます。専用クッションにより身体を安定保持します。

人が乗っていない状態で駐車用ブレーキを解除した場合は、駐車用ブレーキを必ずかけてから車いすに乗ってください。



万一、かけ忘れが起きた場合に、車いすから立ち上がると自動でブレーキがかかります。次に座る時はブレーキがかかった状態で座ることができます。

*ご使用前に必ず動作確認を行ってください。

「セーフティブレーキ車いすの適合の目安」

- ・ブレーキを解除する操作が理解できる方
- ・アームサポートの跳ね上げ機能が不要の方
- ・体重約30kg以上の方

安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

- ⚠危険** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。
- ⚠警告** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。
- ⚠注意** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】

- ⚠** 警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
- 🚫** 禁止の行為であることを告げるものです。
- 🛑** 行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⚠危険

- 🚫** スピードを出さないでください。
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
- 🛑** 自走用であっても自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。
- 🛑** 急な下り坂で介助するときには、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、介助用ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。



⚠警告

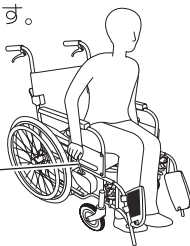
- 🛑** 使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。
ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。
- 🛑** 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

⚠ 警告

- ❌ フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。
フット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。
- ❌ フット・レッグサポートをとじた後フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
- ❌ センサーベルトおよびセンサーベルトローラーを持って車いすを持ち上げないでください。
部品が破損し、けがをする恐れがあります。
- ❌ 手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。
- ❌ 車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

- ❗ 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- ❗ 乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
けがをする恐れがあります。
- ❌ 乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。
- ❌ 乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。
駆動輪（主輪）が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

駐車用
ブレーキの
レバー



- ❌ フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
- ❌ 駐車用ブレーキカバーの隙間に指を入れないでください。
けがをする恐れがあります。

⚠ 警告

- ❗ 各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

- ❗ 使用する前に駆動輪（主輪）・キャスタ車輪・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
- ❗ 人が乗っていない状態で駐車用ブレーキを解除した場合は、必ず駐車用ブレーキをかけてから車いすに乗ってください。
- ❗ フットサポート下面は地上より50mm以上あげた状態で使用してください。
- ❗ 最大耐荷重は100kg（積載物も含む）です。
- ❗ 車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。
- ❗ 体重制限を守って使用してください。
使用最低体重約30kgを目安としておりますが、体重が軽すぎる場合は、移動の際に駐車用ブレーキが正常に解除できない恐れがあります。
- ❗ 背折れジョイント、フット・レッグサポートなどの可動部に指や身体をはさまないように注意してください。
- ❌ 折りたたんだ車いすを開く時に、シートパイプを握って押し下げないでください。
手をはさみ危険です。
- ❌ この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。
- ❌ 専用クッション以外のクッションは使わないでください。
セーフティブレーキが正常に作動しない恐れがあります。
- ❌ センサーベルトを故意に引っ張らないでください。
部品が破損するおそれがあります。



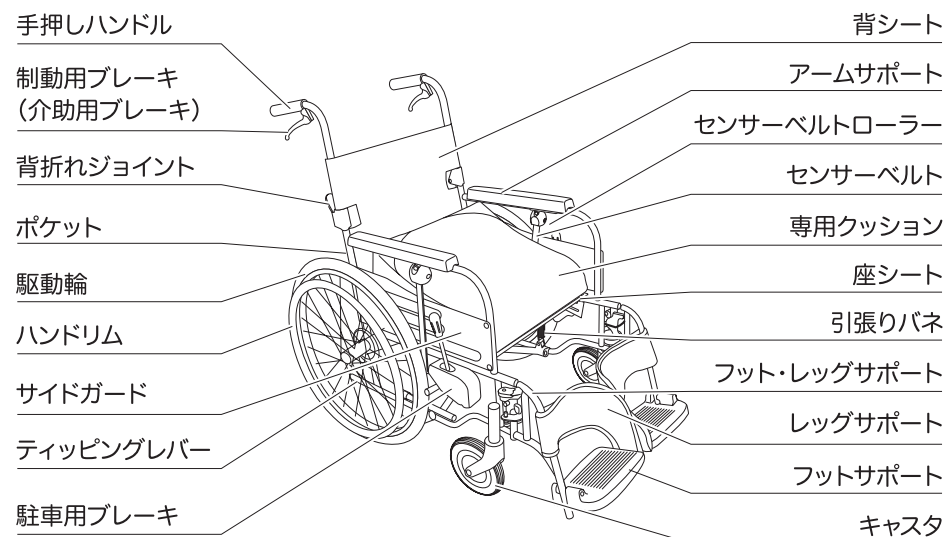
⚠ 注意

- ❗ 車いすに座る際は、座面の奥まで深く腰掛けてください。
駐車用ブレーキが解除できない恐れがあります。
- ❗ 車いすをたたむときは、シートパイプを握らないでください。
手をはさみ危険です。
- ❗ フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。
けがをする恐れがあります。
- ❗ 段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり上り下りしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。
- ❗ 操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
- ❗ 走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。
- ❗ 走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。
- ❗ フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートや前輪キャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。
- ❗ 専用クッションの下に手や指を入れないでください。
けがをする恐れがあります。
- ❗ 専用クッションなしでは使用しないでください。
セーフティブレーキが正常に作動しない恐れがあります。
- ❗ 駐車用ブレーキカバーの隙間にゴミ等を入れないでください。
ブレーキが正常に作動しない恐れがあります。
- ❗ シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。



各部のなまえ

下図は標準仕様車です。車いすによっては、装備や形状が異なります。



使いかた

ブレーキのかけかた／解除のしかた

⚠ 警告

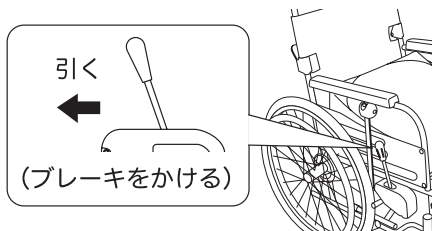
- ・乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- ・乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。
- ・車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。
転倒などの事故につながる恐れがあります。

● 駐車用ブレーキのかけかた

使用者が、左右のブレーキレバーを手前に引いてかけます。

ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。

＊万一、かけ忘れが起きた場合に、利用者が立ち上がると自動で駐車用ブレーキがかかります。



● 人が乗っていない状態で動かす時

動かす時は駐車用ブレーキを解除してください。再び、車いすに乗る場合は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。自動で駐車用ブレーキはかかりません。

※乗車される際に万一、駐車用ブレーキをかけ忘れた場合でも一度車いすに座れば、セーフティブレーキが作動します。

- ・人が乗っていない状態で駐車用ブレーキを解除する際は、レバー操作が重くなります。
- ・折りたたんで移動する際に、駐車用ブレーキを解除しますと、バーンという固い・大きな音がしますが、異常ではありません。
- ・折りたたみ時に駐車用ブレーキの解除を行う時は、ベルトの跳ね上がりに注意してください。

● 制動用ブレーキ（介助用ブレーキ）のかけかた

△注意

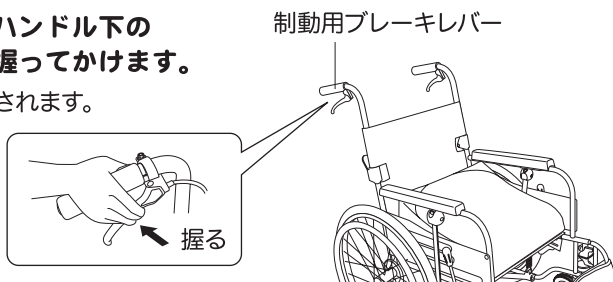
- ・スピードは出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
- ・急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。

△警告

ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

介助者が、左右の手押しハンドル下の制動用ブレーキレバーを握ってかけます。

ブレーキレバーを放すと解除されます。



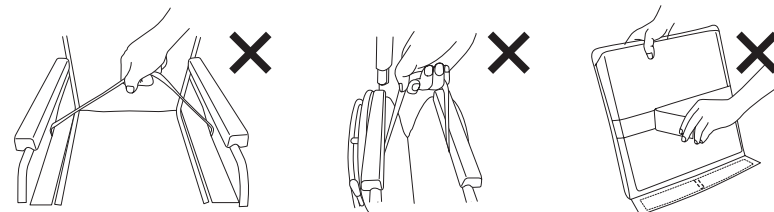
△注意

ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。（交換の目安：1年に1度）

開きかた／たたみかた

△注意

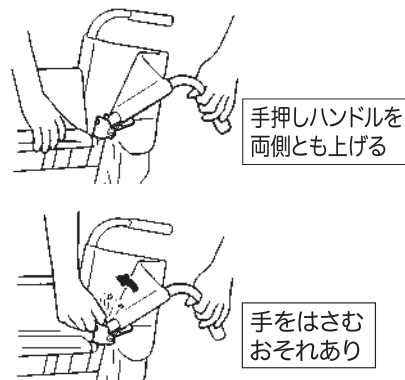
- ・シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。
- ・必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。
- ・背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。
- ・センサーベルトを引っ張らないでください。
- ・クッションプロテクターは、取り外さないでください



● 開きかた

1 駐車用ブレーキをかけます。

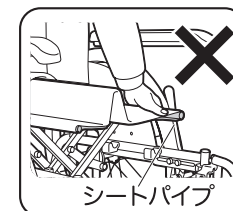
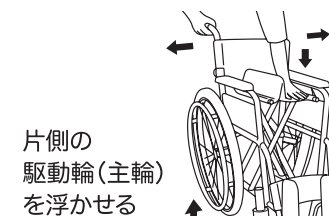
2 手押しハンドルを両側ともあげます。
＊開口部に手や指を近づけないでください。



3 手押しハンドルもって、軽く左右にひらきます。

4 片側の駆動輪を少し浮かせて、その状態を保ちます。

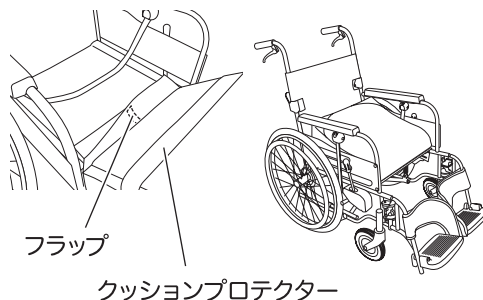
5 駆動輪を浮かせていない側のシートの表面を、手の平で押して開きます。
＊シートパイプは握らないでください。



- 6** センサーベルトがねじれていないことを確認してください。

専用クッションが座シートの中心(フラップとシート部の赤いラインをあわせてください)にくるように、専用クッションの面ファスナーを座シート前部の面ファスナーを貼り合わせください。

*専用クッションは座面後方が少し上がって斜めの状態になります。



● たたみかた

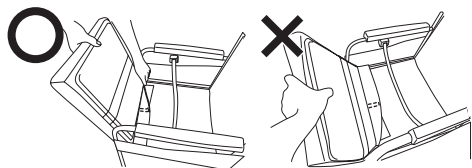
- 1** 駐車用ブレーキがかかっていることを確認してください。

- 2** 図のように、手押しハンドルを両側とも下げます。



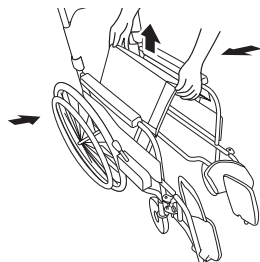
- 3** フットサポートを両側とも上げます。

- 4** 専用クッション後方を軽く持ち上げ、図のようにフラップをもってゆるやかに面ファスナーをはがし、クッションを取り外してください。クッション本体のみをもってひっぱらないでください。



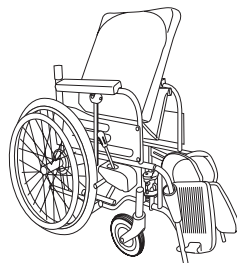
- 5** シートの前後を持ち上げて、シートパイプを引き寄せます。

*センサーベルトは引っ張らないでください。



- 6** 左右のアームサポートを外側から内側に押し、シートを折りたたみます。

- 7** 専用クッションは、センサーベルトをよけて図のように配置してください。



乗り降りのしかた

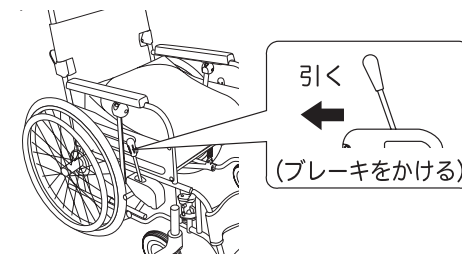
⚠ 警告

- ・乗り降り時は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだすと大変危険です。
- ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

● 乗りかた

以下の方法はほんの一例です。利用者の症状・使用環境などにあわせてご利用ください。

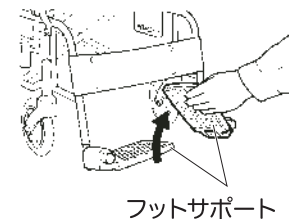
- 1** 駐車用ブレーキがかかっていることを確認してください。かかっている場合は、両輪のブレーキをかけます。(P8 ブレーキのかけかた 参照)



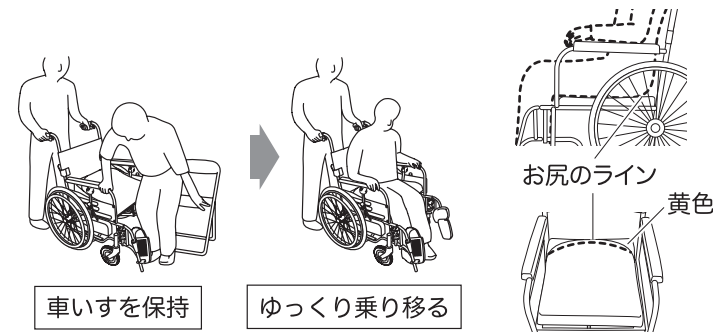
- 2** フットサポートを両側とも上げます。

*フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをするおそれがあります。

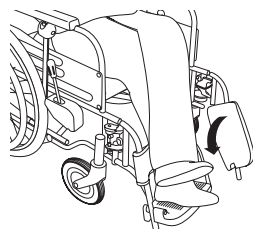
*上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをするおそれがあります。フット・レッグサポートを開くと(P13 フット・レッグサポートの開閉・取り外し参照)より乗り移りやすくなります。



- 3** 車いすをしっかりと保持しながら、座面後方のお尻ラインにお尻がくるようにゆっくりと乗り移ります。



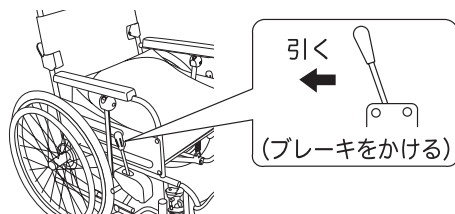
4 フットサポートを下ろして両足を乗せます。



● 降りかた

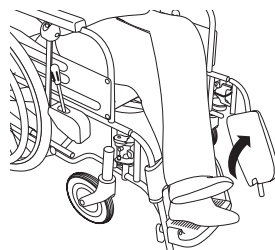
以下の方法はほんの一例です。利用者の症状・使用環境などにあわせてご利用ください。

1 駐車用ブレーキがかかっていることを確認してください。かかっていない場合は、両輪のブレーキをかけます。(P8 ブレーキのかけかた参照)

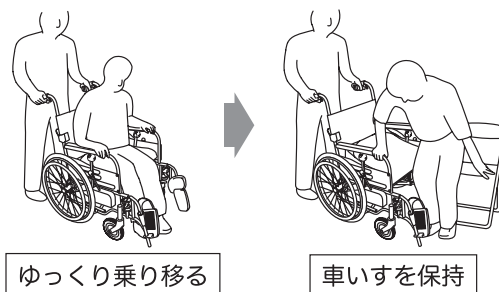


2 フットサポートを両側とも上げます。

- *フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをするおそれがあります。
- *上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをするおそれがあります。フット・レッグサポートを開くと(P13 フット・レッグサポートの開閉・取り外し参照)より乗り移りやすくなります。



3 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくりと車いすから降ります。



ゆっくり乗り移る

車いすを保持

フット・レッグサポートの開閉・取り外し

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

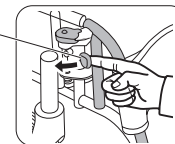
⚠警告

- ・フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車ブレーキをかけてから行なってください。
- ・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者が転倒、落下すると、事故やけがにつながるおそれがあります。
- ・開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。けがをする恐れがあります。
- ・乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

● 開きかた

回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。

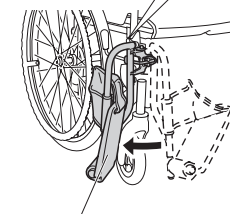
回転レバー



● 閉じかた

- ⚠注意 フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。



フット・レッグサポート

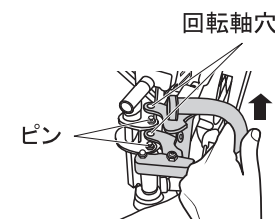
● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

車体フレーム側の2つのピンにフット・レッグサポート側の回転軸穴(2箇所)を合わせてはめ込みます。

- *フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。



ピン

回転軸穴

〈フック部拡大図〉

各部の調節のしかた

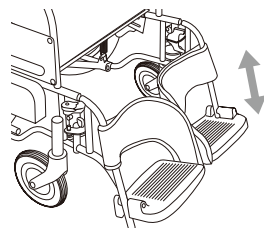
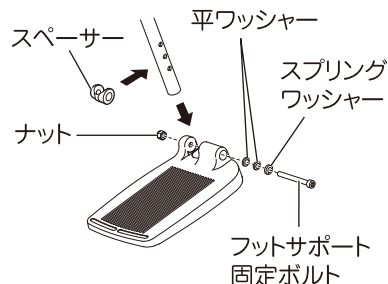
軽量フットサポート

フットサポートは20mm間隔で3段階の高さに調節することができます。

使用する工具：M5六角レンチ

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 フットサポートを下ろした状態で、フットサポート固定ボルトを外します。
- 3 脚の長さに合わせてフットサポートの高さを調節します。
- 4 希望の高さの穴を決めたら、固定ボルトを差し込み、ナットと共に締め付けて固定します。

* 反対側も同様に調節してください。



フットサポート調節のコツ

取り外すとき

- 1 六角レンチ等を使ってフットサポート固定ボルトを反時計回りに回します。反対側からナットが飛び出してきたら、ナットを指で押さえておきます。
* ボルトがナット側に突き出ているときは、ナットを指で押さえているとけがをする恐れがありますのでご注意ください。

- 2 フットサポート固定ボルトが空回りをはじめたら、車いすを傾けてボルトとナットを取り外します。



取り付けるとき

- フットサポート固定ボルトの位置合わせをするときは、穴をのぞいてそこにボルトを挿入してください。
- フットサポートは、片手で回転できるくらいの固さを目安に取り付けてください。このとき、フットサポート固定ボルトを締めすぎないように注意してください。

使用上のご注意

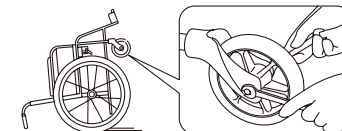
保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

⚠ 警告

キャスト、駆動輪・主輪、ブレーキ等のゆرمみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。（地上より50mm以上あげてください。）

・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。

● 各調整部分が固定されていることの確認

各調整部分をチェックし、確実に固定されていることを確認してください。

● 消耗品、交換部品の確認

⚠ 注意 交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。

新しい部品に交換する際は、お買い上げの販売店へご連絡ください。

品 名	交 換 時 期
主輪・駆動輪タイヤ	タイヤの表面に溝がなくなったとき。
キャスト車輪	表面の摩耗が著しいとき。しっかりロックしても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。ひどく汚れたとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、サビが発生したとき。
引張りバネ	駐車用ブレーキの動作に異常がみられたとき。
センサーベルト	ほつれ、切れ目が発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- ・水などがかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- ・サビやタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

● シートのお手入れ

- ・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、乾かしてご使用ください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● 専用クッションのお手入れ

- ・著しい汚れは、中性洗剤を水で薄め、布に染み込ませ、固く絞って拭き自然乾燥させてください。
- ・シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使用しないでください。
- ・専用カバーのみ液温40℃を限界として洗濯機で洗浄することができます。洗濯機での洗浄は必ず専用カバーにとりつけてあるタグに従ってください。

専用クッションのくみたてかた

- 1 インナーカバー（入れ口の長い方が上向きになるように）に入れたクッション材を白いウレタン材が上方向で、角がR形状になっている方を前方に専用カバーにいれます。
- 2 インナーカバーがファスナーに当たらないように中に織り込んでおきます。
- 3 ベース材は幅方向に注意して専用カバーにいれます。
- 4 2か所のファスナーを閉めます。
- 5 専用カバーをはずす場合は、逆の手順になります。

- ・専用カバーは自然乾燥させてください。乾燥機による乾燥は縮みの原因となりますので、おやめください。
- ・インナーカバーはアルコール清拭できます。

● アームサポート、手押しハンドル等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

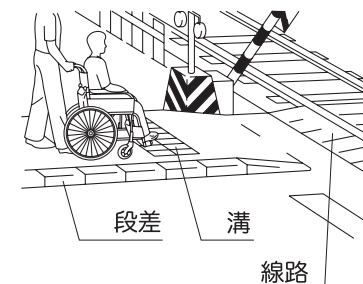
△注意 シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。

● 保管・収納について

- ・収納スペースが少ないときは、シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- ・サビやタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

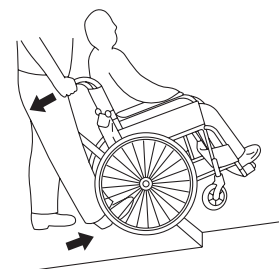
走行上のご注意

- ・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャストの挟み込みには充分注意してください。
- ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。



段の上がりかた

- 1 足元のティッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、前輪キャストを段の上にあげます。

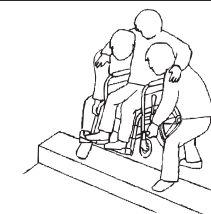


- 2 駆動輪（主輪）を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。
*無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

△警告

持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、レッグパイプ、フットサポートなどは持たないでください。



車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行ない、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持って持ち上げます。

段の下りかた

- 押し手とティッピング部分で車いすを支えながら、ゆっくり段を下ります。
- *無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。
 - *段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。車いすの破損や故障の原因となります。

こんなときには

車いすをご使用されていて、「故障かな?」と思ったら、弊社または販売店へご連絡される前に、下記項目をご確認してください。

症 状	確 認 点	解 決 法
車いすがまっすぐ走らない。斜行する。	路面が傾斜していませんか 車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 自走の場合 傾斜面の低い側に当たる駆動輪をより強く回してください。 介助者が押す場合 傾斜面の低い側に当たる押し手グリップに、より力を入れて押してください。
	キャストの回転に左右差がありませんか。 キャスト軸の回転がスムーズですか。	弊社支店およびお買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	キャスト、駆動輪(主輪)の計4輪がきちんと地面に接地していますか。	弊社支店およびお買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
駐車用ブレーキが効かない。 もしくは自動で駐車用ブレーキがかからない。	駆動輪(主輪)のタイヤが摩耗していませんか。	弊社支店およびお買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押えが駆動輪(主輪)に当たっていますか。 駐車用ブレーキがガタついていませんか。	弊社支店およびお買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	専用クッション以外のものを使用していませんか。	専用クッションを使用してください。
	人が乗っていない状態で駐車用ブレーキを解除し、再度ブレーキをかけましたか。	この場合、自動で駐車用ブレーキはかかりません。 駐車用ブレーキを必ずかけてから車いすに乗ってください。
	センサーベルトおよび引張りバネが摩耗・切断していませんか。	直ちに使用を中止し、弊社支店またはお買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
駐車用ブレーキが解除できない。	体重が約30kg以下の方が、使用していませんか。	使用最低体重は約30kgを目安しております。体重が軽すぎる場合は、移動の際に駐車用ブレーキが正常に解除できない恐れがあります。
	使用者が座面の手前に腰かけていませんか。	座面の奥まで深く腰掛けてください。

こんなときには

症 状	確 認 点	解 決 法
制動用ブレーキ(介助ブレーキ)が効かない。	ブレーキワイヤーが伸びていたり、切れていたりしていませんか。	弊社支店またはお買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ワイヤーチューブが折れ曲がったり、引っかかったりしていませんか?	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取り回しを修正してください。 改善が見られない場合は、弊社支店またはお買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
異音がする。	オプション品、アクセサリなどが本体や車輪に干渉していませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは車輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・摩耗・汚れ・油汚れなどによっておこる摩擦音がしていますか。	弊社支店またはお買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ボルト類が緩んでいませんか。	
	フレームの歪みによっておこる摩擦音がしていますか。	

アフターサービスについて

この商品についてのお問い合わせ

ご意見、ご質問は、お近くの弊社支店、またはお買い上げの販売店へお申しつけください。

フランスベッド株式会社
お客様窓口



0120-80413

修理を依頼されるには

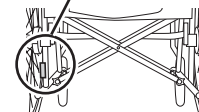
お近くの弊社支店、またはお買い上げの販売店に、この商品の品名および故障状況をくわしくご連絡の上お申しつけください。

商品の保証について

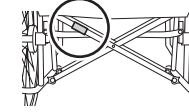
- 保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- 保証期間終了後の修理については、お近くの弊社支店、またはお買い上げの販売店へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。

事前に品番とシリアルナンバーをご確認ください。

商品番号 200075735
SB11-FB
フランスベッド株式会社



座シート下 背面



座シート下 正面